

平成26年8月20日  
総務省高知行政評価事務所  
(所長：石本喜彦)



土佐市 ドラゴンバス

## 高齢者等の交通手段の確保対策に関する 実態調査結果の公表

～暮らしを支える地域公共交通の確保・充実を目指して～



いの町 自家用有償旅客運送

高知行政評価事務所は、四国行政評価支局主導のもと、管内の徳島行政評価事務所及び愛媛行政評価事務所と合同で、平成26年4月から8月にかけて、高齢者等の交通手段の確保対策の実施状況について調査しました。

その結果、高知県内における、県域又は市町村区域を越えた交通手段の確保・充実に向けた広域連携の取組推進が課題となっている例など、①行政区域を越えた広域連携の推進、②コミュニティバス等の運行に対する一層の支援、③旅客の安全及び利便の確保等が必要となっている実態がみられました。

このため、四国行政評価支局は、平成26年8月20日、四国運輸局に対し、必要な改善措置を講ずるよう通知しました。

(注) 行政評価・監視には、総務省行政評価局が企画する「全国計画調査」と、出先機関が地域の行政上の問題点を取り上げ、行政運営の改善を図るために独自に企画する「地域計画調査」があり、本行政評価・監視は後者の地域計画調査です。



栲原町 自家用有償旅客運送

### 【照会先】

高知行政評価事務所  
評価監視官 安藝佳孝  
評価監視調査官 山下寛人  
電話：088-824-4100

四国行政評価支局 評価監視部  
第1評価監視官 末光一成  
評価監視調査官 山根京子  
電話：087-831-9206

# 四国における地域公共交通の課題解決に向けて 関係機関の一層の連携の強化が必要！

通知日：平成26年8月20日  
通知先：四国運輸局

＜高齢者等の交通手段の確保対策に関する実態調査結果に基づく通知＞

## 背景

- 過疎化・少子高齢化の進行
  - バス路線の廃止
  - 移動制約者の運送需要が増大
- 資料1～4



平成18年に道路運送法が改正。地域の合意が得られた場合、市町村等によるコミュニティバスなど地域の実情に応じた旅客運送が可能に 資料5～8  
しかし、依然として、公共交通空白地域が多数存在

特に、高齢化・過疎化が進む四国地域では、交通手段の確保が重要な課題



## 主な調査結果

- ① 県域を越えた交通ニーズがあり、関係2市町を結ぶ交通手段の確保のため、広域連携の推進が課題
- ② 市町村の区域を越えた交通手段の確保・充実のため、広域連携の推進が課題
- ③ コミュニティバスの態様や運賃・料金を協議する場や、自家用有償旅客運送の登録審査の際に、一層の支援が必要な例あり
- ④ 事故・苦情処理の記録を適切に作成又は保存していない例、運行管理及び車両の定期点検整備が適切に行われていない例あり

## 主な通知事項

- 運輸局による広域連携推進方策の助言・支援等
- 運輸支局による広域連携推進方策の助言・支援等
- 地域公共交通の取組に対する支援の充実
- 旅客の安全及び利便の向上に係る指導

## 高知県内の状況

【コミュニティバス等の運行状況】

- ・コミュニティバス：25市町村で46事例
- ・乗合タクシー：8市町村で11事例
- ・自家用有償旅客運送：15市町村で22事例

(無償バスの運行状況)

- ・住民バス：4市町村で4事例
- ・福祉バス：2市町村で2事例
- ・スクールバス活用：8市町村で8事例

調査した8市町村のうち、

- ・ 梶原町では、自家用有償旅客運送の導入により空白地域がほぼ解消の状況
- ・ 土佐市及びいの町では、コミュニティバスや乗合タクシー等の導入により空白地域の解消に一定の効果上げている状況

調査した8市町村のうち、

- ・ いの町において、①事例あり(⇒P2)
- ・ 安田町・馬路村において、②事例あり(⇒P3)

# 1 県域を越えた広域連携による地域公共交通の確保・充実の推進

## 調査結果（いの町本川地区の事例）

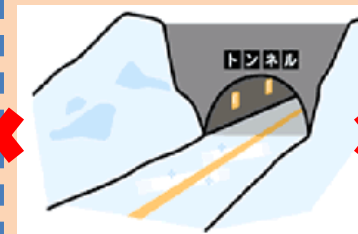
資料9、10

いの町（本川地区）の日常生活の拠点は、総合病院・スーパー等が集まる県境を越えた愛媛県西条市

西条市への移動ニーズは高いが、交通弱者の移動に支障

- ⇒ 県境トンネル付近で既存バス路線が分断
- ⇒ 導入している自家用有償旅客運送も県境を越える運行区間の設定には至らず

R194 寒風山トンネル  
(全長:5,432m)



バス路線が分断

いの町は、西条市への交通手段確保策を模索しており、県域を越える広域連携の推進が課題

通 知

- 四国運輸局による県と連携した以下の助言・支援等
- 関係市町村による連携協議の体制整備
- 推進方策についての積極的な情報提供 など

## 2 市町村の区域を越えた広域連携による地域公共交通の確保・充実の推進

### 調査結果（安田町・馬路村の事例）

資料11

安田町と馬路村の日常生活の拠点は、総合病院・スーパー等が集まる行政域を越えた田野町



町村内を運行する路線バス便は1日4便（平日）と非常に少なく、交通弱者の移動に支障



— 路線バス  
（高知～甲浦線）  
— 路線バス馬路線  
— 土佐くろしお鉄道



— 路線バス（馬路線）  
は平日4便・土日3便  
（馬路村魚梁瀬地区ま  
では2便のみ）



新たな交通手段確保に向け、互いに行政区域を越えた関係町村等との連携・協議を望むが、体制、ノウハウ不足により実現に至っておらず、広域連携の推進が課題

通 知



運輸支局による県と連携した以下の助言・支援等  
○関係市町村による連携協議の体制整備  
○推進方策についての積極的な情報提供 など